

1 単元名 ひきざん（2）

2 単元の目標

- ・繰り下がりのある計算に興味をもち、「10といくつ」という数のしくみのよさに気づき、進んで計算をしようとする。（関心・意欲・態度）
- ・減加法の考え方ができる。（数学的な考え方）
- ・（十何）－（1位数）で、繰り下がりのある計算ができ、その適用題を解くことができる。（技能）
- ・繰り下がりのある計算の仕方について理解する。（知識・理解）

3 単元について

本単元は、2位数（11～18）から1位数をひいて繰り下がりのある減法について学習する。繰り下がりのある計算は初めてであり、四則計算の基礎となる第1学年の重要な内容である。

繰り下がりのある計算の考え方には、主なものとして減加法と減減法の2つがある。減加法は、減数が大きい場合に適用しやすく、減減法は、減数の小さい場合や被減数の1の位に近い場合に適用しやすいと考えられる。減加法は、比較的児童に理解されやすい考え方であること、また減法の筆算にもつながる考え方であるので、まずは、減加法の手順を丁寧に扱い、確実にできるようにすることが大事である。前単元の「繰り上がりのあるたし算」で学習した「10のまとまり」をもとに考える点を生かしながら計算の仕方を理解させていきたい。しかし児童の数のとらえ方や数を操作する能力が一人一人違うので、計算に慣れるに従って考えやすい方法を児童自身が選択していけるようにしていきたい。

4 児童について

児童はこれまでに1位数－1位数や13－3などの繰り下がりのない計算を学習してきた。また、前単元の繰り上がりのあるたし算の計算方法についても、ブロックを用いて具体的に操作させることで、視覚的に「10のまとまり」を意識できるようになってきている。しかし、操作に戸惑う児童も少なからずいる。また、自分の考えをブロックを操作したり図に書いたりして説明することを大切にしたいと考え、前単元の「繰り上がりのあるたし算」の時から指導しているが、まだ十分ではない。さらに計算の習熟には個人差があり、計算カードによる家庭での練習を継続してやっているところである。

授業では簡単な質問に対しては手が挙がり、発言できることが嬉しそうである。しかし、思考を伴う場面や自分の考えを述べる場面になると自信のなさからか発表する児童は限られてくる。そこで授業だけでなく帰りの会の振り返りの場など機会を捉えて、ペアトークの時間を取り、まずは全員が自分の思いや考えを伝える場を設定してきた。言葉にすることで、自分の考えを明らかにしたり、友達の考えを聞こうとする学び合いの基本的な態度を育てていきたい。

5 指導について

本時は繰り下がりのある計算の導入である。減法の計算を確かなものにするために、13－9のように減数大きいものを取り上げ、減加法のよさが分かりやすいようにする。そしてブロックなどの具体的な操作を通して、13－9の計算の仕方を考えさせたい。

全体での学び合いの前に、隣の人とのペアトークを取り入れる。「こうやってできたよ。」「ここまではできたけど、図にかくことができなかったよ。」と自分の考えを確認したり、最後までできなくても、友達の考えを聞かせてもらって自分が考えをもつ手助けとする場にしたい。また、「分かる?」「もう一度聞かせて。」と、相手の反応を見たり、考えに関わろうとする態度も大切にして、声掛けをしていく。

- ・「のこりは」を聞いているので、ひき算だよ。
- ・「とる」とあるので、減っていると分かります。

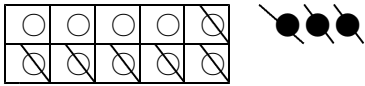
○課題をつかみ、解決方法の見通しをもつ。

13 - 9 のけいさんのしかたをかんがえよう

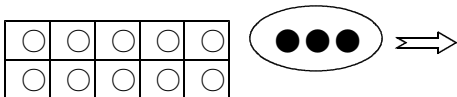
- ・ブロックを使うといいよ。

○計算の仕方を考える。

- ・13 から1つつひいて残りは4。



- ・まず3をひいてから、次に残りの6をひいて4。



- ・10のまとまりから9をとり残った1と3をたす。



○自分の考えを隣の人に伝える。

- ・3をここからとって、6を10のまとまりの中からとって、4になったよ。
- ・1, 2, 3・・9ととって、のこりは4だよ。

○自分の考えを発表し、まとめをする。

- ・1つつ引いていくので、「1つつさくせん」にしよう。
- ・2回引くので、ひくひくさくせんだ。
- ・最初に引いてからたすので、「ひくたすさくせん」。

○11 - 8, 15 - 9の問題を、3つの作戦のどれかを使って解く。

- ・10から一度に引けるので「ひくたすさくせん」は簡単だね。
- ・「ひくひくさくせん」はちょっと分かりにくかったよ。

○学習を振り返る。

- ・13 - 9の計算の仕方がいろいろ分かった。
- ・「ひくたすさくせん」は簡単で早いよ。

- ・復習で取り上げた式13 - 2との違いを見つけさせて課題をつかませる。

- ・ブロック図の書かれたワークシートを使い、図だけでなく言葉も簡単に書くことで思考過程を整理できるようにする。

- ・どの計算の仕方でも、答えが正しく求められたことを積極的に認めるようにする。

☆ブロックやブロック図を使い、計算の仕方を考えているか。

(観察・ワークシート…考)

- ・どこから、どうやって9を取ったかが分かるように、実演したり図を使ったりして説明させる。

☆計算方法を説明することができたか。(観察・ワークシート…考)

- ・出された計算方法の名前をみんなで考えさせることで、特徴を意識させる。

- ・どの方法が、一番簡単で早くできるか考えさせ、減加法のよさに気付かせる。

- ・今日の授業の振り返りをマークを使って書く。